

2 主として他の人とののかかわりに関すること

(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた言動をとる。	(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	(4) 男女は、互いに異性について正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。	(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心をもつ。
礼儀の基本は、相手を一個の人格として認め、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と体が一体となってはじめてその価値が認められる。礼儀は、具体的には言葉遣い、態度や動作として表現される。したがって、相手に対して共通に承認された一定の形が必要になるが、これは人間関係や社会生活を円滑にするために作り出された文化の一つということができよう。しかし、どれほど形ができていたとしても人間尊重の精神がなければ礼は通じない。また、相手を思う気持ちがあるものの、時と場こふさわしくない言動は人々の間では受け入れられないであろう。	他の人とののかかわりの中で、温かい人間愛の精神を深め、これを身に付けることは人間としてきわめて大切なことである。人間愛は、人間を尊重する精神、生命に対する畏敬の念に基づく人間理解を基盤として、他の人に対する感謝と思いやりの心を通して具現化される。人間は、互いに助け合い、協力し合って生きている。人が自ずと感謝の念を抱くのは、他者の思いやりに触れ、それを素直に受けとめたときである。そして、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。このように感謝の心は、主として他の人から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。	真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。そして、相手の人間的な成長を願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという関係であることが必要である。しかし、青年前期においては、感情の起伏が激しく、ともするとささいなことから感情の行き違いが生じ、せっかくの友達関係が台無しになることもある。このような時期に、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、これを契機に友情を一層確かなものにするよう、指導することが大切である。	今日、男女は、社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会の実現が求められている。互いに異性についての正しい理解を深めるとは、互いに相手のよさを認め合うということである。男女間における相互の在り方は基本的に同性間におけるものと変わるところがない。すなわち、互いに独立した一個の人格としてその尊厳を重んじ、人間としての成長と幸せを願うことである。人間の社会が男性と女生とによって成り立ち、家庭においても職場においても互いに協力することによって望ましい社会生活が営まれるわけであるが、それは独立した人間それぞれの個性が尊重され、互いに生かし合うことによって可能となる。男女間における友情や交際も、同性の間における友情と同じように、相手に対する理解を深め、信頼と敬愛の念をはぐくみ、互いに向上していくものでなければならぬ。	個性とは、一人一人の人間がもつ固有の他ととりかえることのできない独自性である。そして、それは、その人の一部分ではなく、人格の総体であり、その人からかけ離れたものではない。人間は、たいいていの物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度から、自分なりの視野で物事を見ることが多い。 そこで、大切なことは、互いが、相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。個性は他と異なるため、開かれた心で他に対して謙虚に学んでいくことが、よりよい人間としての成長を施すために大切なことである。また、個性は、決して自分一人で伸びるものではなく、他に認められながら伸びるものである。互いのもつ異なる個性を見つけ、違うものを違うと認める寛容の心、偏狭なものの見方や考え方のない広い心を育てることが求められる。
中学生ともなれば礼儀の大切さについてある程度理解しており、言葉遣いや行動の仕方もある程度身に付けてはいるものの、まだ十分習慣化しているとはいえない。また、この時期は、一般的な傾向として、従来からのしきたりや形に反発する傾向が強くなることや、照れる気持ちやその場の状況に左右されて望ましい行動ができなくなることも見受けられる。	それに対して、思いやりの心は、自分が他に能動的に接するときに必要な心の在り方である。すなわち、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならぬ。このように考えれば、思いやりの心は、単なるあわれみや同情と考えられるべきものではないことが分かる。	中学生の時期は、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。また、親や教師に多くのことをゆだねてきた児童期から脱し、独立しようとする発達段階にある。それゆえ、世代の違いによるものの考え方や価値観の違いを強く意識するようになり、同世代により理解者を求めたり、心の底から打ち明けて語せる友達を得たいと願ったりする気持ちが高まってくる。しかし、そのため、ときには相手に無批判に同調したり、自分が傷つくことを恐れるあまり、最初から一定の距離をとった関係しかもたない者も出てくる。	中学生の時期は、一般に異性に対する関心は強くなるが、生徒の心身の発達には個人差が大きく、学年が上がるにつれ、異性に対する感情や考え方にも大きな差異が見られる。また、異性に対する関心やあこがれは様々な形で現れる。意識的に異性を避けたり、また逆に異性の関心を誘うような態度をとったりすることがある。あるいは、興味本位のゆがんだ情報や間違った性知識を無批判に受け入れ、様々な問題行動に至ることもある。	中学生に時期は、ものの見方、考え方に違いが現れてくるとともに、個性がはっきりしてくる。そのため、自分の考えや立場に固執したりする傾向が強くなり、友人間に意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。 その一方で、同調過剰の傾向も生じやすく、いじめのような社会問題に発展することもある。また、この時期は、反抗期にあたり、独自性が出てくるために、そのプロセスとして、わがままを言ったり、寛容さと謙虚さに欠けるというようなこともあることを忘れてはならない。
そこで、指導に当たっては、日常生活において、時と場に応じた適切な言動を体験的に学習するとともに、形の根底に流れるその意義を深く理解できるようにすることが大切である。また、逆に、心情面を整えることによって形として外に表すことができるようになることもある。このことを十分に踏まえて、時と場に応じた適切な言葉遣いや行動がとれるよう、特に内面的な指導を重視する必要がある。なお、礼儀は時代や社会によって変わる相対的な面をもっている一方で、伝統として受け継がれるものもある。例えば日本には伝統的な礼儀作法があるように、外国にもそれぞれの国に応じた礼儀作法がある。国際化の進展に伴い外国の人々に接する機会が多くなった今日、外国の礼儀についても理解を深め、外国の人々に気持ちよく接することができるように指導することが大切である。いずれにしても、相手を人間として尊重する精神の現れであることに変わりはない。	中学生の時期には、人間愛に基づく他の人とののかかわりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。しかし、人間的な交わりの場が急速に少なくなりつつある社会環境と合わせて、人間愛への欲求不満から、とかく利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走ることもある。 そこで、指導に当たっては、根本において自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。その上で、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることの喜びを見いだすとともに、感謝と思いやりの心をもって人に接することができるような態度を育てる指導を重視する必要がある。	そこで、指導に当たっては、その場だけの関心や自分に都合のいい相手とだけの狭い範囲にとどまらず、さらに視点を広げ、積極的に生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情を育てるよう配慮することが大切である。 学級や学年を超えた活動を通し、豊かな人間関係を促進しながら、相手の表面的な言動だけでなく、内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係を育てるよう心掛ける。そして、感情の行き違いや考え方の食い違いから生ずる人間関係のきしみを、互いの人格を尊敬する視点から克服することで、より一層深い友情が構築されることに気づくように指導していくことが肝要である。	指導に当たっては、真剣に異性のもつ見方や考え方を知らずにする必要がある。それを基に自分の異性に対する姿勢を見直すきっかけとなるように指導する必要がある。社会の状況は、青少年の成長に必ずしも好ましい状況にはない。学校においては、異性の特性や、違いをきちんと受けとめ、相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することが重要である。さらに、保健体育における性に関する指導等との関連を生かした指導の工夫が望まれる。	指導に当たっては、個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意志に背いて他に同調するのではなく、多様な個性を認め、それぞれの差異を尊重するという態度を育てたい。このような指導を通して、個性の尊重や他に学ぶ広い心が人間としての成長に役立つことを理解できるようにすることが大切である。

